

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 24 章 1~27 節

### ①考え方の違いが分派を生み、争いとなる。それは避けられないか？

『ナザレ人の分派』(5)という表現が出てきます。ユダヤ教から新しく生まれたキリスト者たちのことを指しています。「分派」(14)と訳されている言葉は新約聖書で 7 回出てきます。「サドカイ派の人々 5:17」「厳格な派 28:22」「仲間争い I コリ 11:19」「異端 II ペト 2:1」等、場面によって色んな使われ方をしています。自分と考え方が違う人々がいることは宗教だけに限りません。分派というなら分派であることはパウロも認めています(14)。「自分たちが正しい、相手が間違っている」として相手を排除しようとするのが正しくないことはイエス様も指摘されています(マルコ 9:38-41)。

### ②問題は、力でもって相手を排除しようとする事

問題は、果たして本当にパウロが「世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしたか」(5)です。相手もパウロもその点を問題にし、相手は「引き起こした」と言い、パウロは「それは事実ではない」と主張しているのです。ここで興味深いのは、総督が事を焦らず、事の次第を見て来た千人隊長の意見を聞いて判決を下すことにした点です。パウロがこの異邦人の、それもあまり褒められない人物の判断によって危機を逃れたのは事実です。「イスラム国」が問題になっています。人の命を平気で奪うことを許す主義主張は認められません。しかし、同時に同じように武器を持って事態を鎮静することしか考えないなら相手と同じです。何が彼らをそこまで追い詰めたのか。その原因が自分たち(先進国)の側にもあるのではないか。冷静になってそこから考えなければならないことを教えてくれる箇所だと思います。

### ③パウロは終わりの日を見つめて今を生きた！

パウロは、「正義や節制や来たるべき裁き」について総督に話したとあります(25)。終わりの日の裁きを見つめて今を生きる信仰者の姿です。原発の問題が起き、これからは将来生まれて来る人々のことも考えて生きなければならない責任が加わってきました(世代間倫理)。この世界に対してキリスト者が持つ役割は大きいのです！